

# きゅうしゅう

NO.67



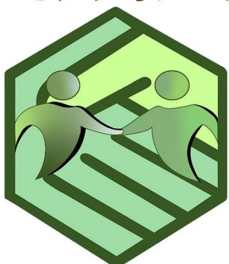
写真：杵岐対馬国定公園「猿岩」（提供：海上自衛隊杵岐警備所）

## 目次 CONTENTS

- 1. 部隊紹介：海上自衛隊 杵岐警備所
- 2. 自治体紹介：長崎県 杵岐市
- 3. 業務紹介：総務部 契約課
- 4. インフォメーション：九州防衛施設地方審議会ほか



写真：対馬防備隊杵岐警備所 自隊警備訓練  
（提供：海上自衛隊杵岐警備所）



防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム

九州防衛局 Kyushu Defense Bureau

<https://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

編集・発行

九州防衛局 総務部

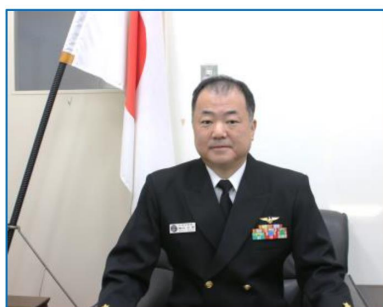
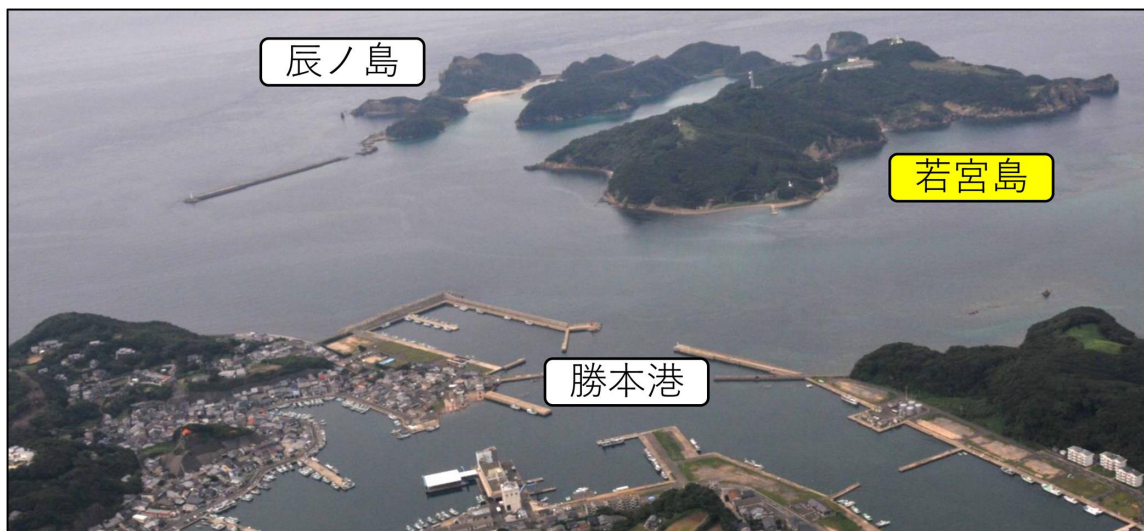
福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎

TEL092-483-8811



# 1. 部隊紹介

# 海上自衛隊壱岐警備所



**壱岐警備所長  
3等海佐 石黒直紀**

九州防衛局広報誌「きゅうしゅう」をご覧の皆様、対馬防備隊壱岐警備所長の石黒です。

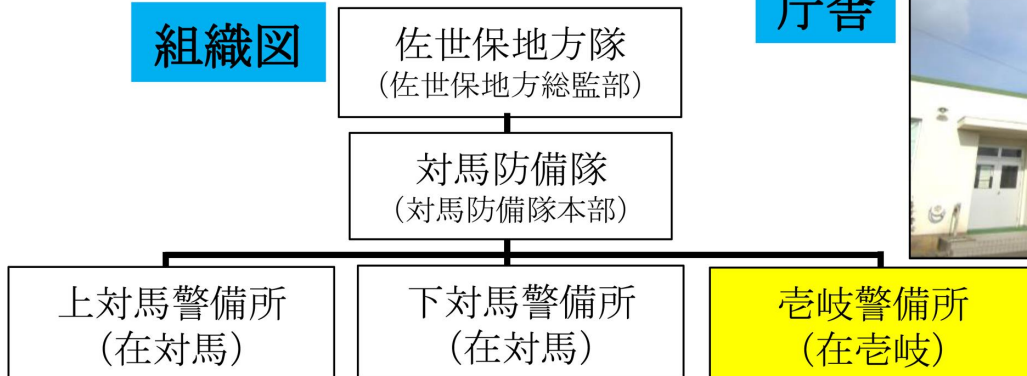
壱岐警備所が所在する壱岐島は、長崎県の対馬から対馬海峡を隔て、福岡県の博多港との中間地点に位置しており、かの有名な著書「魏志倭人伝」にも「対馬国」と同様に「一支国(いきこく)」として記されているほか、江戸時代には「朝鮮通信使」が移動する中継地点としても重要な役割を果たすとともに、150以上の神社仏閣がひしめく神聖な島々の一つとされています。また、その地理的特性から、江戸時代には平戸藩(現長崎県)の遠見櫓が、明治期以降は旧陸軍や海軍の施設が、北からの脅威に対応すべく設置されました。昭和45年以降は、戦後の昭和38年、現在の前身である壱岐監視隊が佐世保地方隊の直轄部隊として開設されました。対馬防備隊所属の警備所として対馬海峡における沿岸水域等の安全確保に関する監視業務を24時間態勢で実施しており、不審な船舶等にも目を光らせています。

壱岐警備所は、壱岐島の北端に位置する勝本港から海上を隔て、更に北へ約1km程の海上に佇む若宮島という無人島に設けられた施設です。そのため、隊員が自前の交通船を毎日運航して通勤するという特徴を有しています。

昨今のコロナ禍の影響で、島の各種イベント等が中止となり、残念ながら地元との交流行事に参加できない状況が続いておりますが、「国境の島」でもある壱岐島に所在する自衛隊唯一の部隊として、今後とも海峡防備任務に誠心誠意尽力して参ります。

本誌をご覧の皆様におかれましても、引き続き離島防衛に携わる部隊へのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

## 組織図



## 庁舎



## 沿革

西暦 (元号)	編成等
1963年 3月 (昭和38年)	壱岐監視隊開隊 (佐世保地方隊直轄)
1967年10月 (昭和42年)	壱岐警備所に改称
1970年 3月 (昭和45年)	対馬防備隊に編入

# 警備所の様子

## 出勤風景



勝本港棧橋

壱岐警備所が保有する交通船を隊員自らが毎日運航し、通勤しています。  
(勝本港自衛隊浮棧橋 ⇄ 若宮島棧橋)

若宮島島内の移動は、壱岐警備所が保有するトラック（キャボール）を使用しています。



## 地域貢献



夏の海開き前には、若宮島に隣接する辰ノ島の海岸清掃や地域の夏季花火大会会場の草刈り作業に参加し、年2回（夏と秋）の官舎周辺草刈り作業にも積極的に参加しています。



辰ノ島



## 地域行事

勝本みなと祭りは、毎年10月上旬に勝本港付近で開催され、出店等の他に、小学生による鼓笛隊や商工会有志による仮装パレードも実施され、当警備所は長崎県で有名な「龍踊り」を披露し参加しています。



長野県諏訪市（壱岐市と姉妹都市）から諏訪大社の「御柱祭」で使用された「古御柱」が寄贈され、勝本町の城山公園に建立されます。その際「海曳き」と呼ばれる海から御柱を引き上げる「御柱祭り」に隊員も参加協力をしています。



## 2. 自治体紹介 (長崎県壱岐市)

### ■市長挨拶



壱岐市長 白川 博一

壱岐市は、福岡県と対馬市の間地点に位置し、長崎空港から飛行機で約30分、福岡市博多港から高速船で約1時間、東京からでも最短4時間で移動することができる非常にアクセス条件のよい離島です。

中国の歴史書「魏志倭人伝」に「一支国(いきこく)」として登場するなど、古代における海外との要衝の場所で、平成27年に「国境の島 壱岐・対馬・五島 ~古代からの架け橋~」というストーリーで、文化庁により創設された日本遺産第1号に認定されており、国指定特別史跡の「原の辻遺跡」や「壱岐古墳群」、約700年の歴史をもつ「壱岐神楽」、子宝の湯として親しまれている「湯本温泉」、古代からの景観が残る「猿岩、筒城浜、辰ノ島」など、魅力的な文化財や観光スポット等が数多く存在する豊かな島です。

また、ウニやイカ、近海で捕れるマグロに代表される海産物、日本一のアスパラ、壱岐牛、イチゴ、メロンなど多くの農産物が豊富に揃う「グルメの島」でもあります。さらに、壱岐は麦焼酎発祥の地であり、焼酎造りも盛んに行われており、「壱岐焼酎」は、今や世界的ブランドとして名を馳せています。

ぜひ壱岐にお越しの際は、悠久の時間が創造した島の素晴らしさを体感してください。皆様のご来島を心よりお待ちしております。

### ■自衛隊との関わり

本市の勝本町若宮島には、海上自衛隊壱岐警備所が所在しています。

隊員の皆様には、本市の各種防災訓練への参加や壱岐ウルトラマラソンなどの各種イベントに対しご協力を頂いています。

また、台風などの災害時には積極的なご支援をいただいております。本市にとってなくてはならない存在となっています。



(写真は長崎県原子力防災訓練参加の様子)

### ■観光

#### 国指定特別史跡 原の辻遺跡

魏志倭人伝に記された「一支国」の王都に特定された遺跡。紀元前2~3世紀から紀元3~4世紀(弥生~古墳時代)にかけて形成された大規模環濠集落。日本最古の船着き場跡や出土品から、壱岐は古代において海外と日本を繋ぐ重要な役割を担い、交易によって栄えていたことを窺えます。近くには、出土品等を展示している一支国博物館、古代体験が楽しめる原の辻ガイドンがあります。





### 辰ノ島

壱岐島最北端の沖に浮かぶ無人島。エメラルドグリーンに輝く海、白い砂浜、断崖絶壁、玄界灘の荒波が造り出した岩穴、まるでゲームの舞台が現実の世界に現れたかのような美しい無人島です。

春～秋は無人島探索、夏は海水浴を楽しめ、また、3月～11月の間は、島周辺を巡るクルージングも楽しめます。



壱岐観光ナビ

### 猿岩

自然によって造られた奇岩は「そっぽを向いた猿」にそっくり！国生み神話



の舞台にもなっていて、生まれた壱岐島が流れてしまわないよう神様が建てた「八本柱」の一つと云われています。

高さ45mの巨大な猿のユニークな形はもちろん、岩越に見える美しい夕日の絶景にも注目です。

### 壱岐焼酎

毎年7月1日は壱岐焼酎の日です。壱岐は麦焼酎発祥の地！「地理的表示の産地指定」により国際的にも認められている壱岐焼酎は500年の歴史があります。

原料は米麴と大麦を1対2で使用した壱岐独特の製法で、麦の香りと米麴を使用することによる天然の甘味が特徴の本格焼酎です。現在、7つの蔵で壱岐焼酎が造られています。壱岐では、壱岐焼酎で乾杯が習慣となっているほど、地元で愛されるお酒です。



### ■壱岐市のふるさと納税

麦焼酎発祥の地 壱岐焼酎、壱岐生まれ壱岐育ち 壱岐牛、自給自足の島 壱岐からの贈り物を是非ご堪能下さい。



ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



### 3. 業務紹介

## 総務部契約課の業務

### 概要

- ◆ 契約課では、自衛隊施設及び在日米軍への提供施設の建設工事やこれらの工事に係る建設コンサルタント業務並びに境界標建植工事等についての入札・契約に関する業務を行っています。

なお、当局の契約業務については、九州局が福岡県・佐賀県・長崎県及び大分県の4県、熊本支局が熊本県・鹿児島県及び宮崎県の3県をそれぞれ所掌しており、募集については、工事内容等に応じて各県から全国までの範囲で実施しています。



### 主な業務

- ◆ 建設工事等の入札公告等の作成・公表等、入札参加希望者の提出書類の審査、入札等の執行・契約、契約の審査(低入札価格調査等)
- ◆ 競争参加資格等審査委員会、入札監視委員会、公正入札審査会の会議等の事務局など
- ◆ 建設工事等における競争参加資格の申請・登録受け付け業務(定期登録・随時登録)

### 契約事例

格納庫



米軍住宅



自衛隊施設・在日米軍施設

## 4. インフォメーション

### 令和4年度九州防衛施設地方審議会

日時：令和4年12月13日(火)

場所：福岡第2合同庁舎2F第1共用打合室  
航空自衛隊芦屋基地

《概要》

令和4年度九州防衛施設地方審議会が、平岩みゆき会長をはじめ委員5名の出席を得て開催されました。

今回は、「周辺財産(移転補償跡地)の有償使用許可について」の業務説明が担当者から行われました。

その後、委員の方々は、航空自衛隊芦屋基地の視察を行いました。



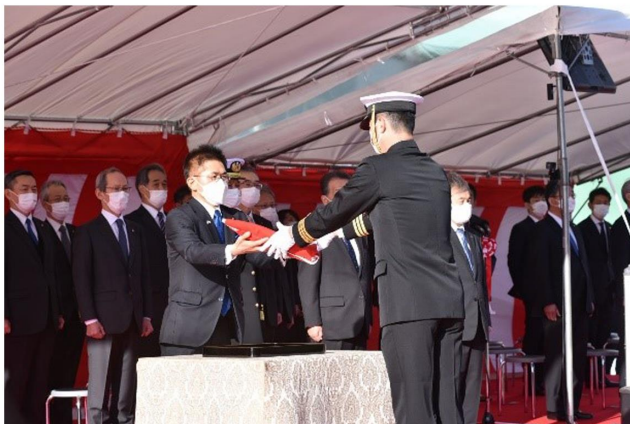
▲航空自衛隊芦屋基地視察

### 令和元年度計画護衛艦3番艦 引渡式 艦名「のしろ」

令和4年12月15日(木)、長崎造船所(三菱重工業株)に木村防衛大臣政務官の出席を得て、引渡式が執り行われ、自衛艦旗を授与された護衛艦「のしろ」が初代艦長渡邊真史2等海佐の指揮の下、配備先である佐世保に向け出港しました。

同艦は、「もがみ」、「くまの」に続く「もがみ」型護衛艦の3番艦であり、基準排水量3,900トン、全長132.5メートル、最大幅16メートル、深さ9メートル、最大速力30ノット以上の最新鋭の護衛艦です。

なお、同艦は、令和元年度に計画され、令和2年7月に起工、令和3年6月に進水、ぎ装工事(各種機器等の搭載)と20回を超える海上での確認運転を経て、今般就役しましたが、この間、九州防衛局長崎防衛支局は、建造工事の監督及び検査を担当し、同艦の完成に深く関わりました。



▲自衛艦旗授与式



▲自衛艦旗掲揚



▲護衛艦「のしろ」に乗艦する乗員



▲出港する護衛艦「のしろ」

## 令和2年度計画護衛艦6番艦 命名・進水式 艦名「あがの」

令和4年12月21日（水）、長崎造船所（三菱重工業株）にて、九州防衛局長崎防衛支局が監督及び検査を担当している令和2年度計画護衛艦6番艦の命名・進水式が執り行われました。

式典当日は井野防衛副大臣の出席を得て、西佐世保地方総監執行のもと三島防衛技監、酒井海上幕僚長、伊藤九州防衛局長、久澤長崎防衛支局長をはじめ防衛省・自衛隊及び三菱重工業株式会社の関係者が見守る中、粛々と行われました。

命名式では、佐世保音楽隊による国家吹奏に引き続き、井野防衛副大臣が命名書を読み上げ、「あがの」と命名されました。「あがの」は福島県を源流とし、新潟県をって日本海に注ぐ一級河川の阿賀野川に由来しています。また、この艦名は、旧海軍の阿賀野型軽巡洋艦「阿賀野」に続き2代目になります。

命名式に引き続き、長崎造船所立神艦船製造部長の進水準備完了の合図により、井野防衛副大臣が斧を振り下ろし、支綱の切断を行いました。くす玉が割れ佐世保音楽隊が奏でる軍艦マーチのなか、号砲とともに色とりどりの紙テープや風船が舞い艦番号6「あがの」は進水しました。

「あがの」は令和6年3月就役予定であり、これから就役に向けた本格的な装工事及び海上での確認運転等が計画されています。九州防衛局長崎防衛支局では引き続き、監督及び検査に万全を期して参ります。



▲国家吹奏



▲支綱切断



▲進水式（護衛艦「あがの」が進水）

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

### 夜間及び休日の連絡先

電話：(092)483-8832 FAX：(092)472-1959

・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、  
休日は終日。